

ソロラ県出張(10月16-18日)

2014年10月19日
在グアテマラ日本大使
川原 英一

1. パナハッチェル市長との懇談

17日午前、マエン・パナハッチェル市長(左下写真、左端から二人目)から、7年間市長と



して活動しており、初めての日本大使の訪問を大歓迎する、日本政府の協力スキームにより環境分野の研修をうけ、自分(市長)の友人でもある3名の元研修生に同席してもらっているとの発言がありました。(当方よりの問いに対して)元研修生からは、北九州市、広島市、大阪市などで、ゴミ・下水処理など、環境問題への取組を研鑽した旨発言がありました。同市長から、パナハッチェルの最大の問題は、環境問題であり、生活用水として利用している

アティラン湖の汚染がこれ以上に深刻にならないよう取り組んでおり、そのため、下水処理により



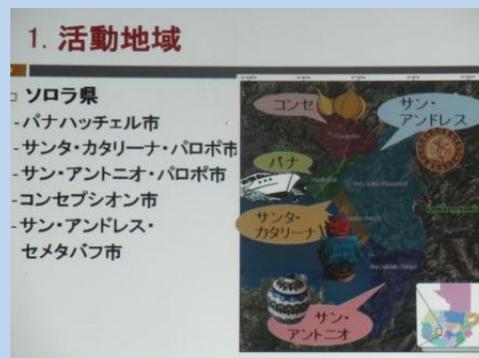
生活排水が直接流れない、ゴミ量を減らすなど環境問題へのさまざまな取り組みが必要。こうした取り組みに必要な人材育成を日本が支援してくれていることに対し、深く感謝する旨市長発言がありました。

当方より、特に北九州市は、1960年代の深刻な公害都市から、今では、環境問題を克服した先駆的都市として世界的に有名である、10年ほど前、同市による世界環境問題への貢献に対して

国連事務総長賞を授与されたと付言しました。

当方から、同席している鶴岡桂子隊員(観光)、樽澤英治シニア隊員(下水処理)の紹介と市の発展への貢献を期待していると発言したところ、市長から、二人の隊員とも同市の発展に、大変、よく貢献してもらっており、日本政府に感謝を申し上げたいとの市長発言もありました。

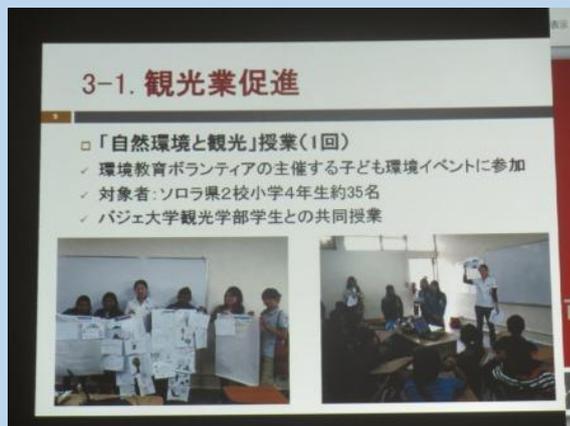
さらに、アティラン湖周辺の5市が連合して、観光・環境・女性の権利擁護などの活動を推進している旨同市長からの発言がありました。



大使からの活動報告

2. マカティラン(5市連合)事務所の訪問

鶴岡隊員が活動拠点としている5市連合事務所を訪問しました。同事務所関係者から環境問題への取組、観光業、女性の活動支援事業などの説明を受けた後、鶴岡隊員から観光業促進活動の現状について説明。観光資源開発・商品化、環境問題への啓発イベント企画、日本祭りなどについて説明を受けました。



パナハッチェル市で今年8月に実施した日本祭りは、元 JICA 日本研修生から、日本での楽



しい経験をした、
当市でも是非
やってほしいと
の要望に応じて、
何人かの
協力隊員が企
画・実施をした
こと、その際、



当大使館から法被・浴衣を借り、隊員の中で徳島にゆかりのある隊員が阿波踊りの指導を行った(左の写真)との説明がありました。同事務所が行う女性支援活動の一つとして、伝統的な織物による新製品(ノートカバーなど)を制作しているとの説明と同製品のサンプルの提供がありました。当方妻が共感し、手持ち在庫を購入させてもらったところ、活動職員から喜んでもらえました。

3. パナハッチェル下水処理プラント視察



樽澤英治隊員(シニアボランティア:左写真の方)が指導されている下水処理プラントを同隊員の案内により視察しました。

1日に1500トンの生活用水の処理能力があること、工場排水がなくて、生活排水だけなのが幸いであること、微生物を利用して8時間で浄化処理がで



大使からの活動報告

きること、浄化したのちの泥は有機肥料として利用ができること、当地の 9 割の人は農業に従事しており、化学肥料はコストが高くて使用していない、有機栽培の野菜が生産されているといった現状説明があり、また、市が建設した下水処理プラントには、設計上のミスもあるとの指摘がありました。

4. **ホセ・クメス市長訪問(17日午後)**

(1)標高1600M のパナハッチェルから、さらに山間道路を車で約 30 分の場所にサン・アンドレ



ス・セメタバフ市がある。ホセ・クメス市長(左下写真、右端から 3 番目の方)及び同市議会関係者との懇談は、市役所 2 階の会議室で行うとの案内があり、市役所二階に上がったところ、市民による歓迎のマリンバ楽団の演奏があり、市民から選ばれた親善大使(左写真の右端の方)や家族たちが我々を待ち受けておりました。歓迎の辞と、マリンバ演奏の後、市議会議員が同行し、市長と懇談を行いました。当方より、河内 遥隊

員の活躍が市の環境問題への取組にお役に立つことを期待します、また、来年 2015 年は日本とグアテマラの外交関係樹立80周年を迎え、交流行事を企画しており、一層の関係緊密化に努めたいとの発言を行いました。

クメス市長よりは、日本の協力隊員が当市に派遣されるということを知り、河内 遥隊員が本当に来てくれたことで、さらに喜んでおり、既に、同隊員は市の職員とよく意志疎通を図って活躍をしてくれており、日本政府の隊員派遣に対して深く感謝をしたい、市の最大の取組は環境問題であること、ゴミ処理や下水処理が課題である、生活排水・ゴミが環境悪化につながっていると指摘された。

(2)河内隊員の執務室で同隊員の活動について説明を受けた。特に、学校を訪問して、生ごみを微生物の力で、コンポスト肥料に変える取組を奨励、生活ゴミを減らす取組をしている、市民の中には、いまだに、ゴミはそのまま山中に持ち去って捨てており、意識改革が必要であること、取組についての啓発活動を行っている旨の説明がありました。



5. **青年海外協力隊員との懇談**



10月17日夜、アテイトラン湖周辺で活躍中の協力隊員 6 名、近藤 JICA 事務所の企画調査員らと懇談しました。既に訪問した鶴岡隊員、樽沢隊員、河内隊員以外に、アテイトラン湖周辺地域で活躍されている太田哲平隊員(小学校算数教育指導)、藤田有希隊員(母子健康)、中村麻

大使からの活動報告

由隊員(栄養改善)が懇談に参加してくれました。各隊員から、地域の小学校を巡回訪問して、小学校教師へ算数教育について助言・指導を行ったり、地域病院を中心とした地域の女性のための啓発活動を行ったり、当国 NGO 団体と連携して乳幼児及び母親の栄養改善・啓発活動への取り組みをしていることのお話がありました。当方から、隊員を志望した理由やきっかけなど聞いたところ、黒柳徹子ユニセフ親善大使の活動を著した本やアフリカの子供達への支援活動を見て自分なりにできることはないか、人のお役に立てることをしたい、との考えから応募したとの発言がありました。また、現職参加制度を利用した協力隊員がおり、企業社員としての身分を残したまま、協力隊員として 2 年間海外で活動することを奨励する日本企業が増えているとの事情説明もありました。(了)